

2019年度 品質指標実績			目標達成			取り組み内容
病棟	基準	4月				
		西	2F	3F		
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	35	57	56	
	入院数	1日～月末日の入院患者数	42	5	1	
		介護：ショートステイ利用者数		1	0	
	長期入院患者	西棟：退院数 介護病棟：6ヶ月	38	36	35	
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	38	26	26	
院内肺炎 (件数)	発生件数	肺炎と診断された患者 (西は肺炎で入院となった患者は除く)	2	13 (8)	7	<p>[西棟] ・尿路感染…終日オムツ内排泄や感染防御力の低下によって生じたと考える。ADLが向上してきた為、日中はトイレ誘導トイレ排泄に努めている。</p> <p>・肺炎…痰を咯出する機能が低下していることや口腔内の衛生状態が維持できていなかったと考える。痰の貯留が多いため適宜吸引SpO₂値を測定した。</p> <p>[2F] ・咳症状と微熱症状の患者がいた。発見と同時にカーテン隔離し、拡大の予防に努めていた。患者は高熱、SpO₂低下の症状みられた。Dr指示のもと、抗生剤DIVや内服治療、O₂投与やアイスノン等で安全・安楽改善できるように努めた。</p> <p>[3F] ・肺炎、尿路感染症だけでなく、1日～2日程の発熱患者が数名いた。昼夜の気温差で体調を崩した様子である。この後は湿度の上昇に注意し療養環境を整えていく。</p>
	肺炎再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	2	4 (4)	4	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	2	13	7	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	1	4	7	
尿路感染 (件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者 (西は尿路感染で入院となった患者は除く)	2	2	3	
	尿路再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	0	0	2	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数 (点滴・内服)	2	2	3	
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	2	2	3	
	新規入院 尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	1	0	1	
	入院1ヵ月後 尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヵ月後に抜去できた人数	1	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	7	7	5	<p>[西棟] ・7名中持ち込み3名で1名S ENT。</p> <p>・今月は早期に褥瘡発生に挙げ除圧に努めた所、1名解除することができた。またハイリスク者をスタッフ間で共有する事(ステーション管理、ベッドサイド表示に努める)により皮膚トラブルを生じた際写真に収め記録。皮膚科受診につなげる事が今後も課題となる。</p> <p>[2F] ・新規発生2名。1名は重症肺炎→S ENT。1名はトコが腕骨骨折に転倒したと為と考えられる。トコや失禁の為陰部部ただれの場合、早期に皮膚科受診。毎回陰洗などの対策を立てていく。</p> <p>[3F] ・新規発生はハイリスク者として挙げ注意していたが、悪化し、褥瘡となった。</p> <p>・1名は経流時の体位や夜間体交の強化で改善したが、もう1名は低栄養状態や骨折に伴う体交制限により除圧しきれず悪化家一行。ドーナツ状の枕を試すなど圧迫が少しでも軽減できるようなケアを行い、医師や栄養士と連携していく。また悪化してからではなく、早期に褥瘡として立案していき取組強化、意識向上をはかる。</p>
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	0	2	2	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	9	5	8	
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	1	0	0	
	上記のうち診療開始 6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	1	0	0	
身体拘束 (人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	15	17	23	<p>[西棟] ・日中安全を考慮しながらベッド柵を3点にし、徐々に解除に取り組んだ。その結果2人ベッド柵拘束解除。また状態が安定した人のミン拘束解除が2人となった。今後も患者の状態をみながら拘束解除の取り組みを行い安全に配慮して行きたい。</p> <p>[2F] ・今月の入院患者でミン拘束2名、ベッド柵1名あり。前に病院等で自抜歴や転落した既往歴があり継続している。今後様子を見ながら介助できるか精査していく。</p> <p>・介護士1名解除に向け取り組み強化中。さらにスタッフ内でもカンファレンスを重ねていきたい。</p> <p>[3F] ・拘束解除取り組み100%継続中。患者の活気が少しなくなり、不潔行為が無くなった為介護衣の解除ができた。今後も拘束解除に向けて取り組んでいく。</p>
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	12	16	16	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%		100	100	
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	3	12	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	9	0	1	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	2	25	23	
医療安全 (件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	2	2	2	<p>[西棟] ・離床センサーOFFにしている間に転倒あり。離床センサー使用患者への対応を再度スタッフ間で周知していく必要あり。(センサーに頼り切っていることが増えている)</p> <p>[2F] ・低床、下肢ベッドUPは守られていた。日中の不穏の状況をチェックしてベッド柵の使用や車イス乗車など対応していく。</p> <p>[3F] ・車椅子からのズリ落ち1件、ベッドよりの転落1件あり。見守り強化、ベッド柵の見直しを行う。</p>
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0	
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	西棟：在宅復帰者 介護病棟：プランに載せた患者数	7	1	4	<p>[西棟] ・家等で自立できていた患者はなるべくリハビリパンツで日中過ごしてもらいトイレ誘導した。</p> <p>[2F] ・トイレ誘導を行ってもプランに載せていないケースがある為、プランへの記載を行っていく様にする。</p> <p>[3F] ・実際にはトイレ誘導しているが日課表に載せていない患者もいる為、日課表と誘導をきちんと合わせ、取り組んでいく。</p>
	トイレ誘導実施率	プランに沿ったトイレ誘導実施者	7	1	4	
経口摂取への取り組み	一口運動	西棟：1名以上 介護病棟：2名以上	0	1	0	<p>[西棟] ・1名脱水、1名肺炎。</p> <p>・DIV加療にて病状改善し、経口摂取開始となる。</p> <p>[2F] ・1名4月16日より一口運動開始。</p> <p>・食事介助者の飲み込みを注意深く観察し、食介する様子を掛け合っている。</p> <p>・早食いの人には少しずつ提供し、混ぜる人には工夫して食事を出している。</p> <p>[3F] ・トロミ茶を飲めそうな患者を選出し、カンファで話し合いSTIに相談し実施につなげる。</p>
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	2	0	0	
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	2	0	0	
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	4	30	29	
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	10	27	23	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		0	0	
【認知症ケアの充実】						
[2F]病棟レクリエーションは病棟内でのレクとおさんぽレクリエーションを行った。来月もおさんぽレクを行っていく。						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)
病棟	基準	5月			取り組み内容	
		西	2F	3F		
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	39	55	52	
	入院数	1日～月末日の入院患者数	42	4	2	
		介護：ショートステイ利用者数		1	0	
	長期入院患者	西棟：退院数 介護病棟：6ヶ月	49	35	37	
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	46	34	35	
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された患者(西は肺炎で入院となった患者は除く)	2	2	3	[西棟] ・肺炎に関して誤嚥が原因をため、患者の嚥下状態によってSTに依頼し評価してもらう、食後数時間後の吸引で食数をなくす、キヤッチUPの角度など患者個別に検討し誤嚥性肺炎を防ぐ。 ・尿路感染について、膀胱留置カテーテル患者は発生していない。ALDが自立又は向上している患者は日中トイレ、又はトイレを使用し夜のみオムツ対応した。
	肺炎再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	0	1	1	[2F] ・先月の肺炎発生13名に対して今月は2名。そのうち再発は1名。 ・先月までは定期的な可能性も考えられるが今月は早目の対応(カーテン隔離、マスク、スタッフの手洗いetc.)を迅速にできた事で拡大はなかった。 ・尿路は先月も今月も1名ずつ。 ・先月からの再発は無く、今月の1名は全身状態の悪化も見られ、西棟にて治療となった。今後も以上の早期発見と対応に努めていく。
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	9	2	3	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	2	1	3	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者(西は尿路感染で入院となった患者は除く)	1	1	0	[3F] ・経口摂取者で新規発生1名あり。日頃より食事摂取量少なく、クリミール100～150ml/日、茶100～200ml/日程度であった。気温上昇もあり脱水からの肺炎も考えられる。禁食、DIV加療となったが、ターミナルケア期でもあるため、DIV等がストレスにならない様対策を増やし観察していく。
	尿路再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	2	1	0	
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	2	0	0	
	新規入院尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	1	0	0	
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	0	8	5	[西棟] ・4月に続き、早期発見と情報共有により、悪化前に治療師、治療につなげる事ができた。入退院が多く、表示や周知が忘れがちになるが、声を出し、研修に参加、委員会で相談する事でよりよいケアが出来るようにつなげていきたい。
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	0	2	0	[2F] ・治療1名、退院2名。新規発生2名は発赤の段階で褥瘡に挙げている。カンファレンス等で発赤の状態を告知する事でスタッフ間での意識付けになってきている。
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	7	5	10	[3F] ・シーティングを新たに3名実施している。
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	2	3	1	[3F] ・患者の状態に合わせた除圧方法を検討。創状態に合わせた処置回数を皮膚科医と相談しながら変更していった。 ・体交で下になっていた側の発赤が気になる患者もハイリスク者として挙がったので、マットレスの適用を再検討していく。
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	2	0	1	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	18	17	21	[西棟] ・若い年齢の認知症の患者が増え、安静が保てず、また指示も入らないため拘束が増えた。昼夜逆転も見られるため生活にメリハリをつけ、日中覚醒して頂き、夜間は入眠にて精神状態の安定をはかり少しずつ拘束解除に向けて援助をしていく。拘束者の情報共有を病棟スタッフみんなで行き安全・安楽に入院生活を送れるようにしていきたい。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	11	17	14	[2F] ・入院から2ヶ月以内に解除3名。うちベッド柵1名、ミトン1名。退院者1名(ミトン解除)もあり5月は拘束解除の強化月間となった。 ・今後も見守りと日々の様子観察を全スタッフで取り組むとする。
	取り組み件数	身体拘束解除取り組み率：100%	100	100	100	
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	0	7	[3F] 新たに4点柵1名開始。 ・拘束解除に取り組み、3名解除となった。今後も解除できるよう、現在拘束している患者の見直しをしていく。
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	2	3	1	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	2	23	22	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	3	3	3	[西棟] ・ADL自立されている人が田舎者を手助けしようとして立ちあがれなくなった事例あり。薬剤の影響もあるが、ADLの状態に合わせ、歩行状態や危険動作ないかアセスメントを続けていく必要あり。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0	[2F] ・同一側により床に降りてしまうとの方向でベッド柵をその側に統一するも、反対側より床に降りてしまい、4点柵となった。他、離床行為頻回にある患者のマットレス対応、日中車イスにて覚醒促し後半は入眠。 [3F] ベッド上で座位になっていたり、端座位になっていたりと見守りの強化が必要であることをスタッフに周知に努めている。
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	西棟：在宅復帰者 介護病棟：プランに載せた患者数	5	0	6	[西棟] ・声かけしなくても、自分から要求されて誘導する事が多い。
	トイレ誘導実施率	プランに沿ったトイレ誘導実施者	5	0	6	[2F] ・プランに上がっていないが、最近トイレ誘導する患者がいる。サービス担当者会議にて話し、プラン更新していく必要あり。 [3F] ・食前、食後、本人希望時など、個別に対応できている。
経口摂取への取り組み	一口運動	西棟：1名以上 介護病棟：2名以上	0	0	0	[西棟] ・嘔吐、肺炎での入院患者が治療にて症状を改善し、食事開始となった。
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	6	0	1	[2F] ・一口運動先月2名開始するも体調不良にて中止となる。今月新規なし。 ・患者の摂取量少ない時は声を掛け合うように病棟で話し合っており取り組んでいる。
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった患者数	6	0	0	[3F] ・現在、食事摂取患者22人、ワーカー3.4人、ナース2人に対応。全介助5人、半介助3人となっている。 ・今はあまり食べない患者はどのようにしたら食べるようになるか取り組んでいる。声掛けをしたり、お茶を飲んでみたり、食前の運動で口を動かす、食べやすい皿、スプーンを使ってみている。
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	1	32	29	
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	7	21	18	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		3	0	

【認知症ケアの充実】

[2F]第一金曜日はおさんぽを行った。第四金曜日は病棟でレクを行う。患者は楽しそうにレクを行っていた。6月は第三金曜日と第四金曜日で病棟レクを行う予定。

【ターミナルケアの推進】

2019年度 品質指標実績			目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)
病棟	基準	6月			取り組み内容	
		西	2F	3F		
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	32	52	52	
	入院数	1日～月末日の入院患者数	37	5	3	
		介護：ショートステイ利用者数		1	1	
	長期入院患者	西棟：退院数 介護病棟：6ヶ月	35	34	34	
感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	33	30	33		
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された患者(西は肺炎で入院となった患者は除く)	1	7	2	[西棟] ・肺炎(誤嚥性も含む)で入院となった患者は約12名だったが、抗生剤治療後回復し、半分以上が食事開始となったり、その後肺炎を生じていない。むせが生じたら中止する、摂食嚥下機能に応じたトロミ量(飲水)の検討や、栄養科、医師との連携を図った。 ・尿路感染では治療上の許容範囲内で飲水を促し、尿による自浄作用を高める。尿閉で連日一時的導尿をしていた患者には看護師から医師へ感染予防や患者の負担を考慮しバルン留置を提案した。 [2F] ・肺炎再発の患者は0件。全身状態悪化によるリスクの高い患者の誤嚥性肺炎で治療開始となる。痰がらみが多く適宜吸引、体位交換、バイタル測定を行って悪化の予防をしている。 ・6/19発熱、尿路感染となりDiv治療とウロバルン挿入で少しずつ状態良好となってきている。今後も状態の観察を行い、異常の早期発見に努めていく。
	肺炎再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	0	0	1	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	12	5	2	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	8	3	1	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者(西は尿路感染で入院となった患者は除く)	1	1	1	[3F] ・肺炎再発1名はほぼ毎月再発しており、終末期としてのケアで良いのではないかとと思うが、家族へ終末期の理解をして頂くのが難しい。今後も変わらず声掛けによる発生、痰の吸引を続けていく。 ・尿路感染者は尿カテ挿入者で結石あるため抜去できず。嘔吐があり、低栄養の為感染率も上がっていると思う。ミルキングで排尿促す。
	尿路再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	0	0	1	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	1	1	1	
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	1	0	1	
	新規入院尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	1	1	2	
入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	1	0	0		
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	4	4	4	[西棟] ・ハイリスク者共有し、ベッド表示を強化すると共に拘縮の患者に対するポジショニングをする事を考えているが、同患者に対するケアの統一を考える必要あり。 ・今月は持ち込み2件、新規発生1件であるが新規の1件は状態悪く急性期の患者。また、全体的に瘡状態は改善傾向である。1件は糖尿病でターミナルによる状態悪化の患者で、改善見られず。 [2F] ・褥瘡1名(2ヶ所)治癒となる。 ・脊柱の褥瘡者に除圧をしていたが、臀部にマットが当たり新たな褥瘡発生してしまった。シーティングチームと相談しマットの選択、除圧方法を検討していく。 [3F] ・全身状態が悪い患者がいる中、全保有者とも不変又は改善で経過。1名死亡退院あり。 ・発生予防の取り組みとして、ハイリスク者のマットレス変更や、経管栄養時のギャジアップの際に掛け物を全て外し、肢位の確認を徹底。 ・後半での一時的発赤報告は1名1回のみ。(前半のべ4名4回)今後も継続して取り組んでいく。
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	1	1	0	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	7	5	12	
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	0	2	0	
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち診療開始6ヶ月以内の患者数	0	13	0	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	7	13	19	[西棟] ・入院時は落ち着かず、不穏状態だった患者が徐々に落ち着き、指示も入るようになり、身体損傷リスクが減り拘束解除になる状態が増えていくつある。 ・今後も状態変化を見逃さず、拘束の見極めを行っていきたい。 [2F] ・3名解除するも、自拔頻回により再拘束となる。 ・ミノン使用者は食事中は拘束。それ以外は外す時間を作っている。 ・拘束認については、家族と情報を共有するようにしている。 [3F] ・施設退院にて1名拘束解除となった。 ・解除に向けて取り組みを行っているが、解除に至っていない。引き続き解除に向けて取り組んでいく。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施しているも「1人」とする	4	13	13	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%				
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	5	7	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	9	0	0	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	1	23	22	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	2	2	0	[西棟] ・ベッドサイドでの転倒2件あり。離床センサー等使用しておらず、転倒の危険性の高い患者であったため、日々のアセスメントを強化していく必要あり。 [2F] ・2件共に同じ患者であり、離床行為が多く、床にマットを敷いて対応している。 [3F] ・車椅子自走者の見守りはできている。 ・ベッド低床、見守りにて安全に過ごしている。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0	
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	西棟：在宅復帰者 介護病棟：プランに載せた患者数	4	1	5	[西棟] ・昼夜ボータブルトイレを使用していた患者が1名いたが、昼間トイレへ誘導するようにした。 [2F] ・食事前に声かけをし、トイレ誘導を行っている。 [3F] ・個別性を持ち臨機応変に対応できているので継続していく。
	トイレ誘導実施数	プランに沿ったトイレ誘導実施者	4			
経口摂取への取り組み	一口運動	西棟：1名以上 介護病棟：2名以上	0	0	0	[西棟] ・脳出血、肺炎の為入院。入院時禁食であったが状態改善し、ST介入、経口開始となった。 [2F] ・食前は口腔体操を行い、誤嚥予防に努めている。 ・対象者の急変により一口運動を行えていなかった為、7月より再開していく。 [3F] ・嚥下が上手くいかない患者などを観察ノートにつけて、スタッフに伝えている。その人に合ったスプーンをみんなで検討し、使用している。
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	9	0	1	
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった患者数	9	0	0	
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	2	32	30	
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	11	25	13	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		1	1	
【認知症ケアの充実】						
[2F]レクで折り紙をはさみで切ったり、のりで貼ったりと指の運動を兼ねて楽しそうに作品作りをした。別日では魚釣りをし、誰が一番獲れるか等競いながらわいわい過ごせた。						
[3F]お誕生日会のレクと病棟レクリエーションを行った。来月も引き続き病棟レクリエーションを行っていく。						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()		
病棟	基準	7月			取り組み内容			
		西	2F	3F				
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	34	50	49			
	入院数	1日～月末日の入院患者数	49	0	0			
	長期入院患者	西棟:退院数 介護病棟:6ヶ月	43 (83)	33	39			
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	41 (81)	30	37			
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された患者 (西は肺炎で入院となった患者は除く)	2	4	3	[西棟]	・経口摂取していた2名の患者が肺炎を再発している。患者の嚥下状態やむせ、痰の増量に関して注意しST介入、評価や主治医に連絡、相談し誤嚥性肺炎の予防や早期対策に今後も努めていく。	
	肺炎再発件数	西棟:2件以内 介護病棟:0件	2	(1)	3	[2F]	・肺炎再発は1名。痰絡みが多く、適宜吸引、体交を行っていたが発熱した。治療を行い、症状は消失。現在も吸引、体交、口腔清拭を行い再発の予防に努めている。	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	11	4	3	[3F]	・3名ともリビーターの発症。1名はMRSAの保菌歴あり。PPE、SC手順、手指消毒を遵守していく。	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	5	4	3		・尿路感染発生の患者は治療し、再発予防に努めたが、全身状態悪化により永眠。	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者 (西は尿路感染で入院となった患者は除く)	0	1	0			
	尿路再発件数	西棟:2件以内 介護病棟:0件	0	0	0			
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数 (点滴・内服)	2	1	0			
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	1	0	0			
	新規入院 尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	0	0	0			
	入院1か月後 尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	0	0			
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	6	2	3	[西棟]	・新規発生あり。ベッドサイド表示、医師の指示に基づき処置、体位変換に努めている。	
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	1	0	0	[2F]	・褥瘡発生防止に努め、また早期発見や早期治療できるようにしていく。	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	9	7	11	[3F]	・ハイリスク周知を表示だけでなくCWを読んで除圧の仕方を検討している。今後は全体で除圧、体圧について勉強していく。	
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	0	2	0		・褥瘡ハイリスク者をカンファレンスで周知したことで、全員で除圧するべき部位がどこなのかを認識し悪化することなく経過できた。	
	上記のうち診療開始 6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	0	2	0		・保持者に完成後も処置回数を増やすなど対策し改善することができた。	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	29	14	18	[西棟]	・すべての褥瘡が不変、または改善し、悪化は無し。不変の褥瘡に対して、皮膚科処置の検討を依頼したり、蒸れ、拘縮緩和の為にシッターによる端坐位を導入。経管ウイ幼児のギャッジアップの際、掛物を外すことは徐々に意識できており、末梢発赤の報告は2回のみだった。引き続きポジショニングへの注意を行っていく。	
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	14	14	11	[2F]	・入院時せん妄により高速度開始した患者に対して、せん妄消失後アセスメントによりすみやかに解除を行った。ADL自立度が高い患者でのせん妄出現により1人あたりへの複数の拘束を必要としたが不必要と思われる拘束は1つずつ解除を行い、適切なアセスメントを行えた。引き続き病状、理解力に合わせアセスメントを行い解除への取り組みを行っていく。	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率: 100%	100	100	100	[3F]	・本人及び家族による希望拘束患者が2名。	
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	2	5		・2名解除したものの、自拔、自傷行為により再度拘束となるが、スタッフが在室している時などを中心に解除へ取り組み、代替を含み検討していく。	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	11	0	0		・1名退院により解除となった。	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	2	22	18		・拘束解除の取り組みは行っているが、解除には至っていない。今後も解除に向けて取組んでいく。	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	10	3	0	[西棟]	・認知症で理解力低下がみられる患者が増加しており、それに伴う徘徊、転倒が続いている。	
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0	[2F]	・センサーマットでの対応を引き続き行い、環境整備を行っていく。	
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	西棟:在宅復帰者 介護病棟:プランに載せた患者数	6	0	5	[西棟]	・離床行為のある患者で低床や床マットで対応していたため、外傷や状態の変化とし今後見守り強化に努める。	
	トイレ誘導実施数	プランに沿ったトイレ誘導実施者	6	0	100	[2F]	・対象の患者が状態悪化し、その後進まず。様子を見て、リハビリと相談しながら行っていく。	
経口摂取への取り組み	一口運動	西棟:1名以上 介護病棟:2名以上		1	0	[西棟]	・個別に合わせたトイレ誘導が行えている。	
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	7	0	0	[3F]	・本人の希望に合わせ検討も行っている。	
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	7	0	0		・週に3回対象患者の一口運動をお行っている。	
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	1	31	26	[3F]	・経口の患者でムセが多い人、一口量が多い人にはスプーンを小さくするなどして対応している。	
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	12	20	18		・日々の食事を観察日記に記入し情報を共有している。	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		1	0		・食べられなくなっている患者が増え、関がwや食介について話し合い、日々取り組んでいる。	
【認知症ケアの充実】								
[2F]月3回ホールにてリハレクを行ったり、スタッフが多にいる日は散歩にも行ったりしている。								
【ターミナルケアの推進】								

2019年度 品質指標実績			目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)		
病棟	基準	8月			取り組み内容			
		西	2F	3F				
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	40	50	44			
	入院数	1日～月末日の入院患者数	40	0	2			
		介護：ショートステイ利用者数		0	1			
	長期入院患者	西棟：退院数 介護病棟：6ヶ月	56 (80)	40	36			
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	50 (74)	24	0			
院内肺炎 (件数)	発生件数	肺炎と診断された患者 (西は肺炎で入院となった患者は除く)	0	1	2	[西棟] ・肺炎は再発1名。新規院内肺炎患者無し。 ・食事後の姿勢に注意し、誤嚥性肺炎の予防に努める。 ・適切な口腔ケアをし、口腔内の衛生を保つ。 ・感染防御力の低下の1つとなる食欲不振(栄養状態の不良)はDr.と補液や食事内容を検討する。 ・尿路感染患者が増加している。陰洗の徹底、見直し、尿水量の確保や患者の排尿習慣、排泄後の清潔行動を考え感染の原因を減らしていく。		
	肺炎再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	1	3	2			
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	9	9	2			
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	8	3	2			
尿路感染 (件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者 (西は尿路感染で入院となった患者は除く)	4	2	0	[2F] ・誤嚥による発熱者9名。再発3名。 ・全身状態低下しているため感染しやすい。口腔ケア、カーテン隔離などを行い、安全、安楽に過ごせるよう努めている。 ・尿路感染はDr.指示、受診を行い、保清し全身状態の観察を行い再発の予防に努めていく。 [3F] ・再発者2名。内1名は何度も繰り返しており、発生の感覚が短くなっている。終末期のケアを提供していきたいが、ご家族の理解と期待に違いがあり、難しい。頸部後屈の進行防止と、訪室時の声掛けによる発声を促していく。		
	尿路再発件数	西棟：2件以内 介護病棟：0件	1	1	0			
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数 (点滴・内服)	3	2	0			
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	1	0	1			
	新規入院 尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	2	0	0			
	入院1ヵ月後 尿カテ除去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に除去できた人数	2	0	1			
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	8	4	3	[西棟] ・新規発生有。治癒に至ったものもあるが、新たな部位に発生してしまうこともあった。 ・褥瘡の周囲だけでなく、他の部位にも留意して体位変換や除圧に努めていく必要あり。 ・ハイリスク者、好発部位に特に気を付けて次月はケアを行っていく。 [2F] ・早期発見、早期治癒を目標にし、毎日カンファで皮膚の発赤のある人の確認を行い除圧に努めている。 ・マットレスについても必要な人を選定し、特殊マットの把握をしている。 ・ハイリスク者も病棟全員で共有している。 [3F] ・褥瘡保有者に対しては継続した対応を行い、改善、治癒している。 ・ハイリスク者に関しては状態悪化した患者に発赤が出現。除圧を徹底していった。新たな発赤が見つかることはほほくなく、状態の悪い患者に限定されていた。状態悪化した場合特に注意していく。		
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	2	3	0			
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	7	4	14			
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	3	1	2			
	上記のうち診療開始 6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	0	1	1			
身体拘束 (人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	15	12	13	[西棟] ・入院時線もにより安静を保つことができず、新規で重複使用した患者、状態悪化により不必要であると判断した患者に対してカンファレンスを行い、適切な時期に解除することができた。 ・認知症、せん妄のある患者に対してのアセスメント評価を引き続き努めていく。 [2F] ・介護衣着用者3名あり。解除はできていない。 ・ミトン着用者は経流時以外に外す等、進めている。 ・家族には説明、同意を得て協力を仰いでいる。 [3F] ・1名ミトン解除するが、自拔等があり再装着した。 ・来月もミトン、柵解除等に向け少しずつアプローチしていく。		
	総実施人数	1人の患者が2種類実施しているも「1人」とする	9	12	9			
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%	100	100	100			
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	10	6			
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	4	2	1			
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	1	29	4			
医療安全 (件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	9	0	0	[西棟] ・歩行可能な患者の転倒が7件あり。センサーマットに踏み転倒した件もあり、センサーマットが適正に使用されているか再検討していく必要あり。 [2F] ・転倒、転落無し。3点柵にて(本当は4点)座位になっていた事例有。注意する。 [3F] ・車いすを自乗できる患者4名、美馬織にてトラブルなく過ごせている。引き続きベッド低床、見守りの強化に努める。		
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	1	0	0			
トイレ誘導・排泄 の達成	トイレ誘導者	西棟：在宅復帰者 介護病棟：プランに載せた患者数	4	0	4	[西棟] ・トイレ誘導の声掛けがなくても自ら行けるようになった患者が多くなってきた。今後も声掛け誘導して自ら行けるよう取り組みしていく。 [2F] ・在宅復帰の対象患者の支援を引き続き行っていく。 [3F] ・個別対応継続できているので、今後も続けていく。		
	トイレ誘導実施数	プランに沿ったトイレ誘導実施者	4	0				
経口摂取 への取 組み	一口運動	西棟：1名以上 介護病棟：2名以上		1	0	[西棟] ・病状により禁食になっていたが、改善に伴い経口開始になった。 [2F] ・経口摂取の患者で半介助の人にはできるだけ自分で食べてもらうよう、手が止まってもすぐに介助せず、声掛けをするなどし、全量自力摂取できるよう工夫している。 [3F] ・経口と点滴の患者が3食経口になった。 ・水分の摂取量が少ない患者に、15時にお茶を飲むことにより夜間良く眠れるようになった。		
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	24	1	1			
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった患者数	24	0	0			
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	0	29	23			
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	10	21	14			
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		0	2			
【認知症ケアの充実】								
【ターミナルケアの推進】								

2019年度 品質指標実績			目標達成		()	内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)
病棟	基準	9月				
		西	2F	3F		
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	24	44		
	入院数	1日～月末日の入院患者数	40	0		
	長期入院患者	西棟:退院数 介護病棟:6ヶ月	34 (64)	36		
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	33	31		
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された患者(西は肺炎で入院となった患者は除く)	0	4	[西棟] ・尿路感染に関して、トイレ自立している患者だったが尿失禁もあった。陰部の保清に關し、NSの目が行き届いていなかった、または1日の水分摂取量が少なく、促すが拒否あり、十分な摂取が出来ていなかったためと考える。飲水が補えない患者に関してDr.に点滴依頼をしていく。 ・入院中、肺炎を生じた患者はなし。日中離床や食事時のみでも車いすで過ごすなど臥床時間を減らしたためと考える。今後も継続していく。 ・再発は、痰が減らず禁食であり終日ベッド臥床していた。 [2F] ・痰絡みが多く誤嚥性肺炎のリスクがある為、頻回に吸引を行い、対抗、バイタル測定し観察を行っていた。体温上昇時はDr.へ報告して服薬管理を行っていた。 ・今月は経管栄養の患者の肺炎が多かった。口腔ケアも行い、適宜訪室して吸引していた。 ・尿路感染に対しても排尿の量、状態の観察を行っていた。また、バイタル測定も行い観察を行っていた。 [3F] ・尿路感染症の再発が多かった。1名は3食離床し、水分摂取も頻回であったが、前立腺肥大があり、あきらかな尿量減少はなかったが影響した可能性あり。 ・2名は療養時間が長くなっており、離床に拒否も強い。	
	肺炎再発件数	西棟:2件以内 介護病棟:0件	1	1		
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	9	4		
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった患者	7	2		
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者(西は尿路感染で入院となった患者は除く)	1	1	[西棟] ・新規発生あり。全身状態が悪い患者の発生。体位変換に努め、早期の発見、周知に努めるが栄養状態も悪く、なかなか治癒しないのが現状。 ・体位変換・指示による処置、褥瘡発生防止に努めていく。 [2F] ・ギャッチアップや体交後に全身、特に下肢の除圧確認を強化。一時的な発赤の報告5回/月(7、8月は17～20回/月)に減少。(同一患者含む)湖畔では老健移転に合わせてエアーマットを除去し、発赤を作らない方法を検討していった。 [3F] ・尿路感染症の再発が多かった。1名は3食離床し、水分摂取も頻回であったが、前立腺肥大があり、あきらかな尿量減少はなかったが影響した可能性あり。 ・2名は療養時間が長くなっており、離床に拒否も強い。	
	尿路再発件数	西棟:2件以内 介護病棟:0件	0	1		
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	1	1		
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった患者	1	0		
	新規入院尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	2	1		
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	1	0		
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	5	2	[西棟] ・新規発生あり。全身状態が悪い患者の発生。体位変換に努め、早期の発見、周知に努めるが栄養状態も悪く、なかなか治癒しないのが現状。 ・体位変換・指示による処置、褥瘡発生防止に努めていく。 [2F] ・ギャッチアップや体交後に全身、特に下肢の除圧確認を強化。一時的な発赤の報告5回/月(7、8月は17～20回/月)に減少。(同一患者含む)湖畔では老健移転に合わせてエアーマットを除去し、発赤を作らない方法を検討していった。 [3F] ・ギャッチアップや体交後に全身、特に下肢の除圧確認を強化。一時的な発赤の報告5回/月(7、8月は17～20回/月)に減少。(同一患者含む)湖畔では老健移転に合わせてエアーマットを除去し、発赤を作らない方法を検討していった。	
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	1			
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	4			
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	0			
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の患者数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	0			
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	12	4	[西棟] ・12件中新規発生9件。認知症による状況理解困難での転倒、清潔保持困難から使用開始した患者あり。使用後転倒なく清潔を保つことができた。また、入院時せん妄により種類併用した患者がいたがせん妄消失後は必要のない次回所についてはアセスメントの上解除を行った。 [2F] ・引き続き解除に取り組み安全の確保と状態観察を行っていく。 ・患者が変わったため解除に向けてアセスメントしている。 ・自拔頻繁な患者ミトン1名増える。 ・ミトンだった患者、軍手にて様子を見る。 [3F] ・1名ENTにて16となった。 ・解除に向けての取り組みは施行していったが、退院以外での解除には至らなかった。	
	総実施人数	1人の患者が2種類実施しているも「1人」とする	7	1		
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率:100%	100	100		
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	0		
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	3	0		
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	0	26		
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	3	0	[西棟] ・認知症による理解を得られない患者による転倒が続いた。センサーマットが今後ベッドでの対応になるため、対応患者を常時検討していく。 [2F] ・低床や体変時の柵を側位側に必ずつけることや、下肢の胸上に努めた。そして見守りをした。 [3F] ・車いす自乗者4名見守りにて事故無し。 ・ベッド低床にて転倒、転落なく過ごすことができた。	
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0		
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	西棟:在宅復帰者 介護病棟:プランに載せた患者数	7	0	[西棟] ・自宅から入院してきた患者はできるだけ早期にトイレ誘導を開始した。 [2F] ・排便に対しトイレ希望あり。介助にて排泄する。空振りもあり。 [3F] ・患者にあったタイミングで介助した。	
	トイレ誘導実施数	プランに沿ったトイレ誘導実施者	7	2		
経口摂取への取り組み	一口運動	西棟:1名以上 介護病棟:2名以上	0	2	[西棟] ・肺炎にて入院し禁食だった患者が治療経過とともに食事開始となった。 [2F] ・一口運動の飲水により屋経口食となるも拒否強く、確立困難。最終的には半圓形屋のみと経管栄養食となった。 [3F] ・毎回食事観察日誌をつけている。 ・患者に合った介助スプーン、介助皿を使い、必要なら食介をしている。 ・咽ている患者がいたら食べている手を止めるなどして気を付けている。	
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	8	0		
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に1食でも経口摂取可能となった患者数	8	0		
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	0	26		
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	5	18		
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数	1			
【認知症ケアの充実】						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()		
			10月			取り組み内容		
			基準			()		
			包括			()		
			従来型			()		
			ユニット			()		
患者数	月初患者数	1日の0:00時点の入院患者数	30	17	59			
	入院数	1日～月末日の入院患者数	47	1	1			
		介護：ショートステイ利用者数			0			
	長期入院患者	包括：総患者数 老健：6ヶ月以上入所	77	0	0			
感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	74	2	20				
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された患者(包括は肺炎で入院となった患者は除く)	2	2	2	[包括] ・今月は院内肺炎、再発患者が多い。 ・院内にて新たに肺炎になった2名は、入院前は自立又は一部介助にて生活していたが、入院後はベッド臥床が終日となり、易感染状態もあり肺炎を引き起こしたと考える。 ・再発は食残がSCIにてひけていたことから誤嚥性肺炎によるものとする。食残がひける患者に関して、Dr.に報告し食事の検討をして再発予防に努めていく。 ・尿路感染は熱の有無、尿の量、性情に注意し即検査に出す等し、早期発見、治療に努めていく。 [従来型] ・旧久米川病院からの肺炎リピーターが再発。痰量が常によく、頻回のSOと安楽な呼吸ができるように姿勢を整えている。		
	肺炎再発件数	包括：2件以内 老健：0件	3	0	0			
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	9	2	2			
	肺炎治療件数	肺炎の症状がなくなった患者	3	2	0			
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された患者(包括は尿路感染で入院となった患者は除く)	1	0	0	[ユニット] ・肺炎：入所後レベル低下あり、嚥下不良となり治療目的にて2階へ転院となったケースあり。 ・要求院の入居者に対し個別にリスクの把握を行っている。 ・認知症強く指示が入らず食事摂取できなかった。食事中のムセは多くなかったが、口腔内の溜め込みがあった。肺炎治療も行ったが、徐々に体力低下し10/26永眠。(ふじ・すみれ)		
	尿路再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	0	0			
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた患者数(点滴・内服)	1	0	0			
	尿路治療件数	尿路感染の症状がなくなった患者	0	0	0			
	新規入院尿カテ留置患者数	当月の新規入院尿カテ留置患者数	2	0	2			
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0		0			
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	13	0	5	[包括] ・持ち込み患者が多い。治療に向かっている患者もいる。 ・指示による処置、早期発見、早期治療に努めていく。 ・皮膚科受診がされない状態で悪化した件もあり、必ず受診するようにする。また体位変換や本人に合った体位変換枕を使用し予防に努めていく。 [従来型] ・好発部位の除圧、観察に努め発生することなく過ごせた。 [ユニット] ・体交後は必ず手で確認をしていく。 ・褥瘡の2名は除圧の徹底もあり改善に向かっている。(なのはな・ひまわり) ・デクビ2名。1名は右背部左耳悪化傾向、体交枕を工夫し、又シッタンによる難床を2回/Wしていく。 ・1名も車いす乗車し屋敷摂取してもらうように難床をしていく。 ・またハイリスク者をスタッフ間で把握し皮膚トラブルの早期発見に努める。		
	新規発生件数	入院後、病棟で発生した件数(d2以上)	3	0	1			
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	6	0	7			
	褥瘡治療件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	0	0	1			
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の患者数	褥瘡治療件数のうち治療開始6ヶ月以内の患者数	0	0	1			
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	9	1	17	[包括] ・認知症による体動活発、転倒リスクの高い患者が増えてきており、ベッド4点柵の拘束がちらほらみられている。転落のリスクを予防しながらも状態が落ち着き、出行安定、意識もしっかりしている患者は早期に拘束解除時間を増やし、完全解除ができるように援助していく。 [従来型] ・旧病院からの継続でミン装着している。胃カテ自拔、皮膚損傷のリスク大のため解除は困難。1日1回はミンを外している。 [ユニット] ・胃カテ自拔した利用者が落ち着きを見てきたので両ミンを片方だけ単手にして様子を見る。 ・拘束着の利用者も屋敷病衣に変更して様子を見ている。 ・本人希望でのベッド柵の使用1名。他2名はミン使用で解除取り組みを今後も行っていく。		
	総実施人数	1人の患者が2種類実施しているも「1人」とする	7	1	8			
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%	100	100	100			
	拘束持込率	入院前に抑制が行われていた患者数	0	1	15			
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	3	0	0			
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入患者数	1	8	28			
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	4	2	5	[包括] ・ADL独歩の患者の転倒あり。入院前との状態の変化を自覚できていなかった患者あり。 ・声掛け、説明、引き続き行う。 [従来型] ・新施設に移転し、利用者の名前確認が甘かったと思われる。注意喚起をした。 [ユニット] ・ベッドは低床にし、センサーベッドを使用し転倒、転落防止の予防に努めた。 ・胃カテ自拔のみ。転倒転落はなし。 ・入所者の介護度が高く全介助者が多い。1～2名危険性があるためセンサーも使用中。		
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0			
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括：在宅復帰者 老健：プランに載せた入所者数	4	0	3	[包括] ・入院前はトイレ自立であったが、病気の発症に伴い、入院時は失禁であった。日中Dパンツ使用、時間で誘導していった。 [従来型] ・現在該当者なし。 [ユニット] ・2名は自力でトイレに行き、1名は本人希望時に誘導、見守り解除で行うことをスタッフに周知し実施できた。他1名トイレ(本人希望時)誘導を行っていたがプランに載せていなかった。		
	トイレ誘導実施数	プランに沿ったトイレ誘導実施者	4	0	3			
経口摂取への取り組み	一口運動	包括：1名以上 老健：2名以上	0	0	2	[包括] ・肺炎、肺炎、吐血、下血、感染性胃腸炎にて禁食であったが、治療にて食事開始となった。 [従来型] ・現在該当者なし。 [ユニット] ・STの許可をもらい、1名開始。本人に聞きながら好みのものを提供し、経口摂取の意欲向上につながるようにしている。 ・昼食時のみ経管とアイソカルゼリーで取り組みを始める。アイソカルゼリーとお茶摂取後に経管を行った。飲み込みも良好であった為、10/29より屋のみ経口食となった。来月以降飲み込みなど様子観察を行っていく。		
	新規1食開始	入院後1年以内に一食でも経口摂取可能となった患者数	9	0	1			
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった患者数	9	0	1			
	経管栄養患者	月末の経管栄養患者数(経口併用も含む)	1	9	22			
個別ケア	吸痰実施患者	月末の吸痰患者	12	8	16	[ユニット] ・1名ターミナル看取り。本人家族の希望に沿って行っていると思われる。 ・現在2名対応中。		
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		0	2			

【認知症ケアの充実】

[ふじ・すみれ]引越後、各ユニットでのレクリエーションが行えなかった。お誕生日会・レクをどのように行うかの確認を行った。

【ターミナルケアの推進】

2019年度 品質指標実績		目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)	
		基準		11月		取り組み内容
				包括	従来型 ユニット	
患者数利用者数	月初患者・利用者数	1日の0:00時点の入院患者・入所者数	35	16	58	
	入院数	1日～月末日の入院患者・入所者数	35	4	1	
		老健：ショートステイ利用者数		0	2	
	対象入院患者・入居者数	包括：総患者数 老健：6ヶ月以上入所	70	0	0	
感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	67	18	39 (20)		
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された人数(包括は肺炎で入院となった患者は除く)	1	2	2	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎の再発者は、以前から誤嚥性肺炎を繰り返していたため、経鼻栄養となったが3日後にて発熱し肺炎を再発してしまった。痰が多い為各勤務帯で適宜吸引を行っている。 尿路感染について1名は1階の経口飲水量が極めて少ないことや、終日オムツ内排泄などが原因と考える。食事時間外で部屋担当のNSが飲水の促しを行っていた。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性的に肺炎を繰り返している利用者が1名と他病院からの入所者1名。離床の見直しを検討する。 包括よりの入所者1名尿閉にて留置中。体調が落ち着いたら抜去を試みる予定。
	肺炎再発件数	包括：2件以内 老健：0件	1	1	0	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	12	2	2	
	肺炎治療件数	肺炎の症状がなくなった人数	8	1	1	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された人数(2Fは尿路感染で入院となった患者は除く)	2	0	0	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 車いす離床、適切な吸引、呼吸状態の観察を行い、状態安定の維持に努めた。 オムツ交換時の尿性状観察、離床、経口者の水分摂取へのアプローチを行いバルン留置者のミルキングを行った。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎診断後1～2か月で死亡退院した入所者1名あり、そのほかにも全身状態悪化もあり。早期発見・対策に努めていきたい。 全入所者合併症予防の為、計画に沿ってケアを行ってきたい。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 食事のムセが目立つようになり、義歯を外しての食事摂取等検討中に肺炎発症となってしまった。治療には食形態の変更し、様子を見ている。
	尿路再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	3	0	0	
	尿路治療件数	尿路感染の症状がなくなった人数	0	0	0	
	新規入院尿カテ留置者数	当月の新規入院尿カテ留置者数	1	1	0	
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	11	1	4	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 早期発見、早期介入にて治癒になった患者もいた。スタッフ間の周知に努め、早期発見、介入に努めていく。 体位変換、除圧、Dr.報告も引き続き行っていく。 ハイリスク者表示、入院時アセスメント評価を皮膚科受診までに対応していくことで発生の軽減に努めた。 ガーゼ保護対応を減らした。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 包括寄り入所者1名持ち込みあり。体調が悪い為悪化するリスクが高い。除圧の徹底に努める。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> オムツ交換時、体位交換の後は手差し確認をしている。 体交枕の使い方、入れ方をスタッフに指導し、褥瘡もよくなっている。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 死亡退院1名、現在1名、新規発生0件。 車椅子離床していった結果、改善傾向である。 今後もスタッフ間で情報共有し、新規発生がないよう努める。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 褥瘡の発生ははなかったが、今後もハイリスク者の周知と除圧・体位変換時の確認を引き続き行っていく。 皮膚トラブルの早期発見・周知をし、皮膚トラブルの軽減に努めていく。
	新規発生件数	入院・入所後、病棟で発生した件数(d2以上)	2	0	1	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	11		6	
	褥瘡治療件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	3	0	1	
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の人数	褥瘡治療件数のうち治療開始6ヶ月以内の人数	0	1	0	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	28	1	21	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 入院時や数日経ってからの新規拘束が多く、主に入院時せん妄や環境が変わった事による不穏状態で拘束することが多い。状態が安定し、評価を行い安全が確認できれば拘束解除に取り組んでいる。 今後も患者の安全に努め、最小限の拘束を検討していく。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 取り外している時間を長くできるように計画していく。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 拘束着の1名、半月様子を見て病衣に変更後解除となる。 認知症の1名、認知度が上がり不潔行為の頻繁の拘束着となる。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 経流時だけミトンを使用している。 しばらくの間片手は軍手を使用していたが、乾燥の季節もあり掻き壊しが激しいため、ミトンが外せなくなった。 軍手や体位変換枕を使い、工夫して対応していたが、自拔が続いたためミトン使用になった。今後また少しずつ軍手にしていく。 日中はパジャマ、夜間のみ介護衣で様子を見ている。 4点柵は身体的な面でバランスが取りづらく転落のリスクがあるため実施中。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 入所前にミトンを使用していた入所者1名入所あり。ミトン使用せずに様子観察していたが、夜の入眠中に無意識に自拔を繰り返すため、19時～翌9時までの時間帯のみミトン使用することとした。今後も解除の取り組みを行っていく。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	17	1	17	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%	100	100	83%	
	拘束持込率	入院・入所前に抑制が行われていた人数	0	1	3	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	15	0	1	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入者数	0	8	17	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	2	0	1	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒1件、転落1件あり。 歩行器や杖での歩行訓練を進めている患者が多く、夜間のトイレ歩行などリスクが高い為患者への教育も併せて行っていく。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 皆で声を掛け合いながら見守りしている。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 低床、測定時のベッド柵は一を前方に徹底する。 また、ハイリスク者の表示を行い注意喚起をした。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒1名あり。カンファレンスにて対策再実施。今回骨折などなかったが、事故が起こる前に変化がしていたら再度対策を行えるようにしていく。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 離床時、センサーベッドのセンサーをOFFからONIに切り替え忘れがある為、ONIにした状態で行うこととした。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	0	0	0	

2019年度 品質指標実績			目標達成		()	()
	基準	11月				
		包括	従来型	ユニット		
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括:在宅復帰者 老健:プランに載せた入所者数	4	1	6	<地域包括> ・日中はリハビリパンツにて声掛けをした。 ・歩行器で動けるようになったこともあり、自らトイレに行くようになった患者もいる。 <やまぶき> ・リハビリでトイレ排泄訓練者1名こちらでも計画していく予定。
	トイレ誘導実施	プランに沿ったトイレ誘導実施者	4	0	5	<なのはな・ひまわり> ・本人の訴えがあるときは2名介助でトイレ誘導を行う。11月は5回実行。(なのはな) ・本人の訴えによりトイレ誘導を行っている入所者1名。11月は訴え無し。(ひまわり) <ふじ・すみれ> ・本人希望時に誘導・見守りを行った。 ・今後も本人の希望時に安全に実施できるよう、プランを周知し行っていく。
経口摂取への取り組み	一口運動	包括:1名以上 老健:2名以上	11	0	2	<地域包括> ・誤嚥性肺炎、食欲不振などで入院した患者へ点滴治療後、ゼリー食などにチャレンジし、経口摂取へUPできている。 ・嚥下状態が不明な患者へもST評価など訓練を行いつつ口腔ケア等で引き続き取り組んでいく。
	新規1食開始	入院後1年以内に1食でも経口摂取可能となった人数	11	0	1	<なのはな・ひまわり> ・1名声掛けにてトロミ茶摂取。覚醒、嚥下状態を見ながら行いむせ込み等トラブルなし。(ひまわり)
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった人数	11	0	1	<ふじ・すみれ> ・屋のみエンジョイゼリーの経口摂取開始(11/12~)となる。体力的なことや食べることの集中力を考慮し、ベッド上での摂取とした。その後、11/19~屋のみ経口食となった。引き続き見守り・観察を行っていく。
	経管栄養者	月末の経管栄養者数(経口併用も含む)	2	9	33	
個別ケア	吸痰実施者	月末の吸痰者数	10	9	19	<さくら・なでしこ> ・現在ターミナル者います。引き続き個々のケアに対応してきます。
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		2	0	
【認知症ケアの充実】 <なのはな>1名症例検討を始める。 <ふじ・すみれ>各ユニットでそれぞれ塗り絵・ボール投げ・音楽鑑賞など行った。今後レクの検討・実践を行っていく。						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()
基準			12月			
			包括	従来型	ユニット	取り組み内容
患者数利用者数	月初患者・利用者数	1日の0:00時点の入院患者・入所者数	35	17	57	
	入院数	1日～月末日の入院患者・入所者数	48	4	4	
		老健：ショートステイ利用者数	0	0	1	
	対象入院患者・入居者数	包括：総患者数 老健：6ヶ月以上入所	83	0	0	
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	81	15	0	
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された人数 (包括は肺炎で入院となった患者は除く)	0	2	1	<p><地域包括> 肺炎に関して、肺炎による入院患者は7名。院内発生や再発はない。 尿路感染症者2名は、高齢女性・不働・失禁・水分摂取量1日あたり少ない時では150ml/日など共通点があり、これらが誘因と考えられる。感染防御として十分な尿流と周期的排尿を維持していくため、本人の嗜好に合わせて、茶→水または飲みやすいゼリーなど検討する。 部屋持ち看護師が10時・15時に飲水介助していく。 早期発見・治療として尿臭や色の尿の性状を注意する。 新規尿カテ患者は、心不全・浮腫著明にてラシックス点滴し尿測管理・目的とベッド上安静で留置となった。</p> <p><やまぶき> この2名はリピーターであり、頻回に口腔ケアや経流時のポジショニングなどに気を付けて対応している。</p>
	肺炎再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	2	0	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	7	2	1	
	肺炎治療件数	肺炎の症状がなくなった人数	6	2	1	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された人数 (2Fは尿路感染で入院となった患者は除く)	2	0	0	<p><なのはな・ひまわり> 現在吸引施行者5名。痰量・性状ともに落ち着いている。 経口者ムセ込みもあるも介助にて摂食フォローを行い嚥下状態安定している。 口腔ケアの徹底を行っている。(全入居者) ハルン挿入者はミルキング・流出確認を行い、つまりの傾向があれば早期に対応した。 飲水量のチェック・尿の量・性状チェックにてトラブル回避に努めた。(混濁・尿量減少の早期発見→飲水を行う)</p> <p><さくら・なでしこ> 尿路感染症、肺炎ともになし。 排尿時訴えの1名いるが対応中。 嚥下機能の低下がみられ、ムセ込みする人もいる。誤嚥性肺炎にならないよう無理せず対応する。 口腔ケア等行い口腔内の保清も行う。引き続き行っていく。</p> <p><ふじ・すみれ> 肺炎発生1名。再発なし。 ADL拡大図っている入居者の方であったため、発熱が落ち着いた後はベッドUPによる坐位時間確保からはじめ、徐々に離床に努めた。</p>
	尿路再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた人数 (点滴・内服)	3	0	0	
	尿路治療件数	尿路感染の症状がなくなった人数	3	0	0	
	新規入院尿カテ留置者数	当月の新規入院尿カテ留置者数	1	0	0	
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	1	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	7	0	1	<p><地域包括> 7名中1名状態悪化にて死亡退院解除となる。 2名主治医許可を得て滲出の多い患者ワップ療法を施行する。ワップ療法2名中1名は上皮化改善傾向。1名ワップ療法+軟膏ガーゼ療法中。どちらも栄養状態悪く禁食中。創部挙上・除圧に努める。 新規発生者2名。大柄で自己体動なし。ハイリスク者に対し、ボボちゃん&体交表を各患者床頭上に貼付し、個別性を記入する事で注意点の周知を図っている。</p> <p><やまぶき> 発赤の早期発見に努め、情報を共有し除圧に努めた。</p> <p><なのはな・ひまわり> 発赤の患者は現在改善している。 スタッフへの体位変換の指導もあり、褥瘡患者・ハイリスク患者とも悪化はしていない。</p> <p><さくら・なでしこ> 新規発生0件継続中。今後もスタッフ間で情報を共有し発赤などの早期発生を見つけてケアしていく。</p> <p><ふじ・すみれ> 褥瘡ハイリスク者1名は足が重なり合って褥瘡が出来てしまう。今は足に枕を挟むことで完全に治癒している。 ハイリスク者は仙骨部分が良くなり悪化したりの繰り返しした。今は悪化の為ハイリスク者に載せませす。 委員会では12月に褥瘡対策に関する診療計画書を居室担当者へ書いていただき今後も継続し、また</p>
	新規発生件数	入院・入所後、病棟で発生した件数(d2以上)	2	0	0	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	10	0	5	
	褥瘡治療件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	2	0	1	
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の人数	褥瘡治療件数のうち治療開始6ヶ月以内の人数	0	0	1	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	27	1	17	<p><地域包括> 前医より継続し、退院のため解除7名、死亡退院のため解除2名。 せん妄消失によりアセスメントの上、解除できた例が3件であった。前医より継続の患者は認知症により退院まで転倒リスクあったため継続。 新規発生14件。入院後せん妄により転倒・転落リスクあり、清潔維持に困難見られたことから、1名で重複しての発生があった。 せん妄・認知症の状態によって個別にアセスメントし、早期に解除できるよう引き続き取り組んでいく。</p> <p><やまぶき> 左手が活発であり、ミトンを装着しているが顔をこすってしまい胃カテが抜ける恐れが強い。そのため解除には至らなかった。</p> <p><なのはな・ひまわり> ミトンの患者1名が胃カテ自拔をすることがなくなったので、解除とする。 拘束着に関しては継続様子を見ていく。</p> <p><さくら・なでしこ> 拘束解除取り組み中。1名はほぼ解除で様子観察をしている。経流時のみミトン着用しているが、ミトンをしていない時に自拔された。 離床時やケア時に解除に向け取り組みを行っているが、掻痒感が強く、掻き壊し・乾燥の季節もあり(塗り薬使用)短時間になっている。引き続き解除取り組みを行っていきます。</p> <p><ふじ・すみれ> 1名は19時のオムツ交換から朝のオムツ交換の時間の間にミトンを使用。その他の時間はフリーにて様子観察。 1名は毎日ご家族が面会に来て、その間ミトンを外している。引き続き拘束解除に向け取り組んでいく。</p>
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	18	1	17	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%	100%	100%		
	拘束持込率	入院・入所前に抑制が行われていた人数	0	1	3	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	3	0	2	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入者数	1	9	11	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	2	0	2	<p><地域包括> 入院後間もない状態での転倒2件あり。入院後のADLの変化・認知機能の程度をアセスメントし、入院期間が浅い患者へのトイレ付き添いは十分に行っていく。</p> <p><やまぶき> ベッド上の体位などに気を付け、車椅子自乗中の見守りなど、スタッフ間で声をかけあいながら対応している。</p> <p><なのはな・ひまわり> ベッド柵の位置・側位時の体位保持にて転落防止に努め、低床を徹底した。</p> <p><さくら・なでしこ> ずり落ち・転落2名。リスクがありカンファレンスしていたが、センサーマットのスイッチがOFFになっているなどの件もありカンファレンスで話し合ったことを統一できるようにしていく。</p> <p><ふじ・すみれ> 転倒転落のリスクのある人への周知が行われた。今後も意識を持ち対応してもらえるように努めていく。</p>
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	1	0	0	

2019年度 品質指標実績			目標達成		()	
基準			12月			
			包括	従来型	ユニット	
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括:在宅復帰者 老健:プランに載せた入所者数	3	0	3	<地域包括> ・発熱に伴うADL低下により、入院時オムツ使用していたが、治療と並行してセンサー対応や声がけを行うことでトイレでの排泄を目指していった。 <ふじ・すみれ> ・2名は自主的に自力で行っている。1名は要望がある時に支援を行った。引き続きトイレ誘導・解除をチーム全体で行っていく。
	トイレ誘導実施	プランに沿ったトイレ誘導実施者	3	0	3	
経口摂取への取り組み	一口運動	包括:1名以上 老健:2名以上	/	0	1	<地域包括> ・誤嚥性肺炎、食欲不振などで入院した患者へ点滴治療が治療後食事開始となった。 ・嚥下に問題ある患者はST介入し、食事開始となる。
	新規1食開始	入院後1年以内に一食でも経口摂取可能となった人数	11	0	1	<なのはな・ひまわり> ・AM10時に甘い紅茶・アイソカルゼリー摂取する。 ・今後食事が摂取していけるかSTと検討する。
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった人数	11	0	0	<さくら・なでしこ> ・「食事介助のポイント」のプリントを各自確認し、適切な介助ができるよう取り組んでいます。 ・口腔ケアについて丁寧に潤いと清潔保持を心掛けケアを行っています。
	経管栄養者	月末の経管栄養者数(経口併用も含む)	1	10	32	<ふじ・すみれ> ・経口で少しでも自力摂取ができる方にはなるべく自分で食べて頂けるように、手が止まってもすぐには介助せず、声掛けを行いご自分で食べて頂けるよう促している。 ・スプーンがうまく持てない方にはグリップや介護用のスプーンを使って頂き自力摂取を促している。
個別ケア	吸痰実施者	月末の吸痰者数	12	9	10	<ふじ・すみれ> ・単発の発熱のため、数日吸痰して方がいたが、現在落ち着いている。
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数	/	1	0	
【認知症ケアの充実】 <ふじ・すみれ>お楽しみ会をふじ・すみれ合同で行った。ボランティアや職員による踊りや歌・経口食におやつを提供をした。						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績		目標達成		()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)		
		基準		1月		取り組み内容
				包括	従来型 ユニット	
患者数利用者数	月初患者・利用者数	1日の0:00時点の入院患者・入所者数	40	19	59	
	入院数	1日～月末日の入院患者・入所者数	33	1	3	
		老健: ショートステイ利用者数		0	0	
	対象入院患者・入居者数	包括: 総患者数 老健: 6ヶ月以上入所	73	0	2	
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	71	20	63	
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された人数 (包括は肺炎で入院となった患者は除く)	0	0	1	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎再発者は、終日ベッド上臥床が長期に渡っているため、再発を引き起こしたと考える。(体動が激しく指示が入らないため、リクライニング車椅子乗車も難しく)痰も多いため、適宜吸引や口腔ケアを行い予防に努めていく。 尿路感染症に関して1名は入院前から何度も再発を繰り返していた。長期膀胱留置カテーテル使用中であるのも原因の1つと考えられる。 尿カテ留置2名は閉尿により一時的導尿を行っていたが、改善はみられず留置となった。1名は尿の性状が正常に戻りつつあり、抜去に向け医師と相談をし早期抜去に努めていく。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 口腔の保清に努めた。 衛生士の指導を仰ぎ、引き続き保清に努めていきます。 陰部洗浄は個人別の洗浄ボトルを使用開始した。
	肺炎再発件数	包括: 2件以内 老健: 0件	1	0	1	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	5	0	1	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった人数	2	0	0	
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された人数 (2Fは尿路感染で入院となった患者は除く)	2	0	2	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 脳梗塞の再発後肺炎を発生し1ヶ月以内に再発をした入所者が治療継続中。吸引・口腔ケア強化し対応。他入所者に対しても口腔ケアの徹底離床(W/L)の推進。 バルン留置3名、ミルキングの施行(訪室時)をし、感染予防につとめた。 経口者の飲水を促した。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎、尿路感染症の発症者は0で経過中。 診断はないものの、排尿時痛の訴えをする人や、飲水が少なくなりがちなので、一人一人水分補給や、保清・口腔ケア等を引き続き行っていき、0に努めていく。 早期発見予防に努め、スタッフの情報共有を行っていきたい。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎発生・再発なく特記なし。 尿路感染症発生2件、再発0件。 1名は耐久性の低下により加療は尿カテ留置し残尿排出することとし、尿路感染症症状軽快した。尿カテ抜去後トラブルなく、尿性状観察継続中。 1名は2月3日まで加療中。トレイ誘導対象者のため、排泄後のご本人による清拭が清潔となるよう共通介入していたが発生となった。飲水量不安定な為、状態把握と適宜補水に努めていく。
	尿路再発件数	包括: 2件以内 老健: 0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた人数 (点滴・内服)	4	0	2	
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった人数	0	0	1	
	新規入院尿カテ留置者数	当月の新規入院尿カテ留置者数	2	1	0	
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	9	2	5	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 治療目的入院の持ち込み褥瘡者が新規発生5名中2名。病棟発生者3名。グレードI 1名。ターミナル栄養状態悪い患者2名。 栄養状態の悪い患者でもラップ療法にて治癒に繋げ再発予防となることが出来ている。今後も離床とポジショニング強化・スタッフの意識付けをし、発生予防に努めたい。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 今月2名発生。 1名は全身状態悪化。1名は仰臥位を好む傾向にあるため側臥位保持に努める。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 除圧の徹底と、状態についてスタッフで共有・治癒に向け援助。2名について治癒となる。再発しないよう観察継続している。 1名については、皮膚科受診を行い、治癒に向けているが改善難しく、今後も対応継続していく。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 褥瘡治癒1件あるが、好発部位なので、体位変換の指差し確認を行っていきます。 寝返りが出来る人に、体交枕の入れ方を工夫して改善を目指します。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ハイリスク者1名は足に水疱が出来てしまった。まず足が重ならないようにクッションの工夫をスタッフ全員に周知を徹底して行う。 ハイリスク者1名は仙骨の皮膚トラブルの改善が見られてなかったためリストアップ。
	新規発生件数	入院・入所後、病棟で発生した件数(d2以上)	3	2	0	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	15		6	
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	3	0	4	
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の人数	褥瘡治癒件数のうち診療開始6ヶ月以内の人数	0	0	3	
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	19	1	18	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 入院時せん妄や環境が変わったことによる不穏により、ベッドからの転落や転倒、車椅子からのずり落ち、胃カテ・DIVの自拔が見られた。一時的に拘束を行い治療。継続や安静を保つことにより、精神状態が安定し拘束を解除することが出来た。 今後も状態の見極めを行い、定期的に評価し拘束の解除に努めていきたい。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 左手の動き活発であり、顔面をこすること多く鼻の固定テープもはがれることが多い。家族が来院されている時はミトンを外しているが解除はできず。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 拘束着用利用者が今月不潔行為がなかったため、来月解除を進めていく。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 拘束解除に向け、カンファを開き時間帯での解除を行っています。経流中のみミトン装着や離床時の解除を個別対応で行っています。 安全ベルトと4点柵を入所時行っていたが、解除し様子観察している。 掻痒感の強い方は解除が難しいが、見守りながら解除を目指す。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 解除取り組みは行っているが、理解度が低下しているため、解除には至らなかった。引き続き解除に向け取り組んでいく。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	12	1	13	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率 : 100%		100%	100%	
	拘束持込率	入院・入所前に抑制が行われていた人数	0	1	10	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	3	0	5	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入者数	3	9	14	

2019年度 品質指標実績			目標達成		()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)	
	基準	1月			取り組み内容	
		包括	従来型	ユニット		
医療安全 (件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	4	0	0	<地域包括> ・1件は外出中の転倒。他3件は認知機能低下による危険予知判断能力の低下により転倒してしまった。センサーマットの使用や部屋調整し、対応した。 <やまぶき> ・車椅子自乗者3名。見守り・声掛け・正しい座り方などに注意している。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	3	0	0	<なのはな・ひまわり> ・ベッド柵を側位側に設置し、低床の徹底。 ・睡眠リズムを整えるように、離床や揺痒コントロールをした。 <さくら・なでしこ> ・転倒転落でのインシデント・アクシデントは発生なし。スタッフが情報共有し、観察できている。 ・その他(内服誤薬)アクシデントあり。業務改善が必要であったため、カンファレンスを行った。 <ふじ・すみれ> ・リスクがある入居者に対するの対策への意識を高められた。引き続き安全対策を周知していく。
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括:在宅復帰者 老健:プランに載せた入所者数	2	0	4	<地域包括> ・1人で行けるが見守りは必要。時々トイレでDパンツを脱いでそのままパジャマをはいている。 ・パッドをはめるのが1人では難しいので、Dパンツのみにしてみた。1人で脱ぎはき出来るようになった。
	トイレ誘導実施	プランに沿ったトイレ誘導実施者	2	0	2	<なのはな・ひまわり> ・ベッド上で過ごすことが多くなり、うとうと気味。起き上がるのもおっくう。だんだん体力低下。本人からの訴えなくなる。リハビリと協力しあい離床時間を増やせるようにしていきたい。 <ふじ・すみれ> ・ご状態に合わせて誘導を行ってレベル維持を図り、安全に、またプランを変更した際はそれに沿って実施していく。
経口摂取への取り組み	一口運動	包括:1名以上 老健:2名以上	0	0	1	<地域包括> ・肺炎治療と並行して入院時より経口摂取への取り組みを行っている。 ・嚥下機能が低下している患者はST介入し経管栄養やりつつ経口摂取も訓練していている。
	新規1食開始	入院後1年以内に一食でも経口摂取可能となった人数	2	0	1	<なのはな・ひまわり> ・一口運動でアイソカルやお茶を飲んでしたが、レベルが下がったため中止となる。
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった人数	2	0	0	<さくら・なでしこ> ・月末から一口運動を始め、毎日ではないがゆっくり少しずつ飲んでいるようです。これから経口摂取につながる様、継続していきます。
	経管栄養者	月末の経管栄養者数(経口併用も含む)	2	0	31	<ふじ・すみれ> ・経口摂取者で一口量の多い方には介護用スプーンを使用していただいたり、食前に口腔体操を行い誤嚥予防に努めていく。
個別ケア	吸痰実施者	月末の吸痰者数	8	10	10	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		0	0	
【認知症ケアの充実】 <なのはな・ひまわり>お誕生日会で一緒に歌を歌ったり、ボール遊びをした。これから週2回レクを取り入れていきます。 <ふじ・すみれ>1/28(火)GG7によるギターソング会を行う。2月からユニットレクリエーションは火曜・木曜に開催し、ゲームやボール遊びを行う予定。お誕生日会は偶数月で行う予定。						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)
	基準	2月			取り組み内容	
		包括	従来型	ユニット		
患者数利用者数	月初患者・利用者数	1日の0:00時点の入院患者・入所者数	39	20	59	
	入院数	1日～月末日の入院患者・入所者数	34	3	2	
		老健：ショートステイ利用者数		0	3	
	対象入院患者・入居者数	包括：総患者数 老健：6ヶ月以上入所	73	0	0	
感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	72	18	20		
院内肺炎(件数)	発生件数	肺炎と診断された人数(包括は肺炎で入院となった患者は除く)	0	2	0	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月新たな肺炎となった患者はいなかった。 ・再発患者は経管栄養、口腔内汚染着明や痰が多く各勤務帯にて口腔ケア吸引を行っていたが、発生となった。 ・尿路感染症1名は3食端座位をとるが、それ以外ベッド臥床であり、オムツ内排泄・高齢・免疫力低下などから感染したと考える。 ・新規尿カテ患者2名は、自尿がみられず数回にわたり導尿を行っていたため、留置となった。
	肺炎再発件数	包括：2件以内 老健：0件	1	2	0	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	9	2	0	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった人数	4	2	0	<p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺炎発症の1名は常に吐気・嘔吐があり、栄養剤の変更や投与方法の変更など実施しているが、治まらず誤嚥性肺炎となっている。 ・1名は食思不良となり全身状態の低下とともにリスクが大きくなっていったが、予防ができていなかった。
尿路感染(件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された人数(2Fは尿路感染で入院となった患者は除く)	1	0	3	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸引・口腔ケアの徹底を行った。離床計画に基づき車椅子乗車にて離床を行った。 ・ハルン留置者には訪室時にミルキングを行い、経口者への水分促し、尿の性状・量の観察を行った。
	尿路再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	2	0	1	<p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿路感染症の発症あり。水分摂取を促すなど行っていた。疥癬の影響もあり離床も控えめになっていたため、引き続き改善できるように対応したい。 ・口腔ケアも引き続き密に行っていた。
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった人数	2	0	3	
	新規入院尿カテ留置者数	当月の新規入院尿カテ留置者数	2	0	0	<p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺炎発生、再発なし。 ・自己にて経口摂取するがムセる方に対して一口量を減らすためにスプーンを小さめにして観察強化している。 ・尿路感染症発生、再発なし。 ・前月発生した方に対し十分量飲水できるよう摂取量を把握。離床時間確保しこまめな補水を促している。
	入院1ヵ月後尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	0	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	3	1	4	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月は持ち込み多発デクビの方1名。1月に新規発生の方1名。 ・持ち込み継続の方1名。この方は治癒となっています。 ・上記2名は退院の為、終了となっています。 ・状態の悪い方、栄養状態の悪いハイリスク患者に対し、周知するよう声掛け・皮膚の保護を継続していきます。
	新規発生件数	入院・入所後、病棟で発生した件数(d2以上)	0	0	0	<p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善・悪化を繰り返している。 ・拘直(伸展)が強く、またご自分でも動いてしまうため、良いポジショニングが取れていない傾向にある。
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	10		11	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力体動し起き上がりや自分の意思で体動する人はほぼ0人に等しい。その中で個々に合わせたケアを実施している。再発のリスクもあるが、スタッフの観察・対応で1名のみとなっている。 ・発赤の段階で伝達・カンファレンスでの報告により、悪化する事なく経過している。
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	1	0	1	<p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規発生0件。 ・治癒者1名も発熱が続いているため、他の皮膚トラブルがないよう体位変換・除圧・発赤などの早期発見に努める。
	上記のうち診療開始6ヶ月以内の人数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の人数	0	0	1	<p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク者に対し、1名は踵をつかないように枕を挟み対応する。もう1名は仙骨の除圧の確認。もう1名は仙骨に亀裂が入りやすい。オムツは蛇腹対応し、朝食前に陰洗する。今後も引き続き行ってもらう。
身体拘束(人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	12	1	14	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院時の不穏状態やせん妄によりやむを得ず拘束を行うことがあるが、状態が落ち着いたときに評価をし拘束解除に向けて取り組んでいる。また拘束を行うのは最終手段とし、患者の安全が守られるように日々検討していく。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施しているも「1人」とする	9	1	11	<p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手の動きが活発であり、胃カテに触れていること多々あり解除には至っていない。
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%		100%	100%	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月初旬より不潔行為をする人に対して様子観察をし、パジャマに変更しても不潔行為をする人がなかったため、2/28をもって拘束着を解除した。
	拘束持込率	入院・入所前に抑制が行われていた人数	0	1	9	<p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・離床時はミトンを外し解除に向け取り組んでいるが、長時間は掻き壊しがひどいため難しい。午後のオムツ交換後ミトン解除は継続中。経流中のミトン使用も継続中。昼の離床時見守りつつミトン解除を行っている。
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	8	0	1	<p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名はご家族の面会時(毎日)ミトンを外し過している。理解得られることが難しく、自拔のリスクが高いため、今後ご家族の協力のもと、様子観察を行っていく。 ・外部からの入居者1名。胃ろうの方で体動活発。前医ではミトン・4点柵であったが、ミトンなし・3点柵で様子観察を行う。胃ろう部を触る様子が見られたため、ご家族に腹帯を依頼した。今後も様子観察を行っていく。
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入者数	1	8	20	
医療安全(件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	1	0	0	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知機能低下により、危険予測ができず転倒した事例あり。ベッド周囲に環境を整備・センサーベッドを使用し対応していった。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きベッド低床・見守りの強化を続ける。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	2	0	0	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低床・側位側へのベッド柵移動。日中活動することで昼夜のバランスを整えることをそれぞれ徹底・継続。 ・センサーマット1名使用中も離床行為なし。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒転落については0件だが、その他内服の飲ませ忘れがあり、対策を立てて行っている。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒転落のリスクのある入居者の周知と対応を今後も強化していく。

2019年度 品質指標実績		目標達成		()		
		2月		取り組み内容		
		包括 従来型 ユニット				
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括:在宅復帰者 老健:プランに載せた入所者数	2	0	4	<地域包括> ・退院に向け尿・便意なかったが、時間で誘導をおこなうことで失禁はあるもののトイレへ行けるようになった。 <さくら・なでしこ> ・下剤が入り、排泄の訴えがあったときトイレにお連れする方がいる。
	トイレ誘導実施	プランに沿ったトイレ誘導実施者	2	0	4	<ふじ・すみれ> ・ご本人より訴えあれば2人介助にてトイレ誘導を行っている。また、ご本人が尿意がはっきりしない時は、食事の前後に声掛けをし、トイレ誘導に努めている。
経口摂取への取り組み	一口運動	包括:1名以上 老健:2名以上	0	0	1	<地域包括> ・食欲不振、イレウスにて入院した患者が治療により状態改善。食事開始となった。
	新規1食開始	入院後1年以内に一食でも経口摂取可能となった人数	8	0	0	<なのはな・ひまわり> ・今のところ一口運動の入居者は0名である。トロミ茶を飲める入居者をSTと相談して始めていきたい。
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった人数	8	0	0	<さくら・なでしこ> ・トロミ茶2～3口から少しづつステップアップでき、屋のみ対応で茶200ccクリアすることができた。 ・見守りを必ず行い楽しく安全な食事(経口摂取)ができるよう基本のポイントを常におさえる。
	経管栄養者	月末の経管栄養者数(経口併用も含む)	2	9	32	<ふじ・すみれ> ・ムセ込みの多い方には介護スプーンやプレートを使用していただき、ゆっくり食べて頂くよう促している。誤嚥の兆候がみられた場合はスタッフ間で情報共有を行い、予防に努めていけるよう話し合っていく。
個別ケア	吸痰実施者	月末の吸痰者数	4	8	12	
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数		0	1	
【認知症ケアの充実】 <なのはな・ひまわり>月に一度誕生日会・ギターレクなど参加してもらっている。食事前も口腔体操など行っている。 <ふじ・すみれ>毎週の定期レクリエーションのほかにできる限りレクの時間を増やし、ご利用者同士のコミュニケーションを図っていただくとともに、その人に合った生活を送っていただくようにケ						
【ターミナルケアの推進】						

2019年度 品質指標実績			目標達成			()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)
	基準	3月			取り組み内容	
		包括	従来型	ユニット		
患者数 利用者数	月初患者・利用者数	1日の0:00時点の入院患者・入所者数	34	20	59	
	入院数	1日～末日の入院患者・入所者数	37	20	1	
		老健：ショートステイ利用者数		0	1	
	対象入院患者・入居者数	包括：総患者数 老健：6ヶ月以上入所	74	11	34	
	感染未発症者	上記患者の中で感染未発症者	73	7	50	
院内肺炎 (件数)	発生件数	肺炎と診断された人数 (包括は肺炎で入院となった患者は除く)	0	3	4	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎再発に関し患者2名とも嚥下機能低下がみられ、また痰も多いため誤嚥性肺炎を生じている。現在半固形のみとなっているが、痰の量や覚醒状態をその時の受け持ち看護師が判断し、中止または数割程度食事介助している。 尿路感染症は前回の入院時、尿路感染症になった患者であり、感染リスクが高い。今回肺炎で入院となったが、尿路感染症発症し抗生剤投与している。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 痰がらみの多い方は誤嚥性肺炎のリスクが高く、機能低下により肺炎を発症しやすい。日頃から観察・離床・口腔ケア・吸引など行い、清潔を保ち肺炎を予防していく。 入所時よりウロバルン挿入者3名いたが、バルンの詰まりや交換時期により抜き様子を見たところ、尿流出良好となった。 バルン以外での発熱1名あったが、抗生剤内服治療で症状は落ち着いている。 陰部の清潔を保ち、感染の予防をしていく。
	肺炎再発件数	包括：2件以内 老健：0件	2	1	1	
	肺炎治療実施	肺炎に対する治療が行われた人数(点滴・内服)	14	4	2	
	肺炎治癒件数	肺炎の症状がなくなった人数	5	0	1	
尿路感染 (件数)	尿路発生件数	尿路感染と診断された人数 (2Fは尿路感染で入院となった患者は除く)	1	1	3	<p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 入所時より発熱傾向のあった患者が38.0℃以上となり胸X-P、CTにて肺炎所見あり。 また同じ入居者に尿路感染症の診断もあり3/17よりレボフロキサシンの内服開始するも37.0℃台の発熱は持続している。感染対応を続け、呼吸管理、バイタルサインチェック、吸引を行い、また尿量性状のチェック、保清に努めケアを行っている。 ひまわり1名肺炎。3/24発熱レベル低下にて加療開始するも状態悪化にて3/27死亡退院となった。 ひまわり、なのはな尿路感染1名ずつ。共にバルン挿入者でありひまわりの入居者はバルントラブルによる発病を繰り返している。4/13膀胱尿道造設予定となっている。 なのはなの入居者もバルントラブルにて発熱。交換後改善。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 経管の入居者は週2回以上離床を行い肺炎や尿路感染の予防や再発防止に努めている。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 肺炎 発生1名、再発0名。経管から3食経口に移行後の入居者。自力摂取できるが速食あり。見守り強化し、声掛け、食具工夫にて対応中の発生であった。配膳する量を何回かに分け、一度に食べ過ぎないように工夫中。 尿路感染 発生1名、再発0名。元来尿汚染があり、経流の入居者。全身性に拘縮があるが姿勢の崩れやすさはないため車いす離床やベッドアップによる坐位時間拡大に努める。
	尿路再発件数	包括：2件以内 老健：0件	0	0	0	
	尿路治療実施件数	尿路感染に対する治療が行われた人数 (点滴・内服)	4	1	1	
	尿路治癒件数	尿路感染の症状がなくなった人数	2	1	0	
	新規入院 尿カテ留置者数	当月の新規入院尿カテ留置者数	0	0	0	
	入院1ヵ月後 尿カテ抜去患者数	入院時尿カテ挿入していたが1ヶ月後に抜去できた人数	0	2	0	
褥瘡(件)	総褥瘡件数	1人の患者に2か所以上あっても「1」とする	0	2	1	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 3月は持ち込み、新規発生共に0件。 入院時アセスメントによりマットレスチェック、ハイリスク者の共有、離床を今後も継続していきます。 独居、るいそう著明者に関しては、他職種と連携をとり改善を試みていきます。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 経口摂取難し、点滴中心となった入居者、こまめに体位変換行うも改善見られず。体交枕使用するも効果確認できず。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 褥瘡患者は入浴時に写真を撮って様子を見ている。 拘縮、ハイリスクの患者はスタッフと共有し、体交枕の使い方をスタッフで考えている。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ハイリスク者に対して仙骨、かかと、体位変換時手差し確認を行う。 食後は体の向きを変えるのを忘れがちになるので注意する。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 褥瘡ハイリスク者が3名。 2名は仙骨部とかかとの好発部位の除圧をし、皮膚トラブル等のないよう努める。 1名は仙骨部に亀裂が入りやすく、便汚染しないよう朝食前に陰洗を行っている。
	新規発生件数	入院・入所後、病棟で発生した件数(d2以上)	0	1	0	
	褥瘡ハイリスク者	ハイリスク者と選定された延べ人数	8	5	7	
	褥瘡治癒件数	褥瘡回診で治癒と判定された件数	0	0	0	
	上記のうち診療開始 6ヶ月以内の人数	褥瘡治癒件数のうち治療開始6ヶ月以内の人数	0	0	0	
身体拘束 (人)	総実施人数	1人の患者が2種類実施していたら「2件」とする	14	0	8	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 認知症により転倒転落リスク・清潔保持困難なことから、重複し実施する患者が複数いた。また前月より引き続き実施の場合も同じ内容であった。退院時まで安全の確保への介入を要し、退院に伴い解除となった。アセスメントを引き続き行い、解除に向けて継続的に取り組んでいる。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ひまわり死亡ENTがあった為解除となる。 不潔行為がある入居者は工夫をして様子を見る。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> ミトンをしていても痒痒感が強く金具等で掻き壊しがあった為クッションを挟んだりしている。 ミトン解除時間を延ばすため、クッションを用いている。離床時は外している。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> ご家族の面会中止となったが、日中ミトンを外しての様子観察を実施。トラブルなし。 来月も解除に向けての取り組みを行っていく。
	総実施人数	1人の患者が2種類実施していても「1人」とする	10	0	8	
	取り組み件数	身体拘束解除取組比率：100%	100%	0%	100%	
	拘束持込率	入院・入所前に抑制が行われていた人数	0	0	2	
	2ヶ月以内解除	取組み開始後2ヶ月以内に解除した件数	0	0	1	
	胃カテ挿入者	月末の胃カテ挿入者数	0	0	22	
医療安全 (件数)	転倒・転落(0・1・2)	インシデント(0・1)アクシデント(2)として報告された件数	4	0	0	<p><地域包括></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で動ける患者の転倒あり。シルバーカーを押してベッドへ戻る際に転倒。ベッド周囲の環境整備を行うとともに、流れ星マークを活用できるよう検討していく。 <p><やまぶき></p> <ul style="list-style-type: none"> 車椅子自操されている方が4名いる。見守り強化して自操を続けていただく。 トランス時の転倒転落に注意している。 <p><なのはな・ひまわり></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒、転落リスクに対し低床、ベッド柵の固定や重りを付けるなど対策を継続。 入所時より要リスク者としてベッドを壁につけていた入居者は、ベッド位置を部屋の中央にして見守り強化に努め、トラブルなく経過している。 <p><さくら・なでしこ></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒、転落なし。 今日はインシデント、アクシデントの提出がなく、ちょっとした事でもスタッフが入入るよう協力を促していく。 <p><ふじ・すみれ></p> <ul style="list-style-type: none"> 転倒、転落なし。引き続き予防策を周知し行っていく。
	転倒・転落(3以上)	アクシデント(3以上)として報告された件数	1	0	0	

2019年度 品質指標実績			目標達成		()内は再発がやむを得ないと判断した事例(ショートステイ含む)	
	基準	3月				取り組み内容
		包括	従来型	ユニット		
トイレ誘導・排泄の達成	トイレ誘導者	包括:在宅復帰者 老健:プランに載せた入所者数	4	2	5	<地域包括> ・おむつ使用から日中Dパンツにして声掛け誘導。何回か行くと自らコールを押してトイレに行けるようになった患者もいる。 <やまぶき> ・尿カテ留置者2名、尿意があるため抜去し順調にトイレにて自己排尿が出来ている。
	トイレ誘導実施	プランに沿ったトイレ誘導実施者	4	2	5	<さくら・なでしこ> ・トイレに行きたいと訴えがあったときのみトイレ誘導する。 <ふじ・すみれ> ・2名は自力でトイレでの排泄の実施。 ・1名は誘導介助、見守りで実施。 ・1名は訴え時、2人介助で見守り実施。
経口摂取への取り組み	一口運動	包括:1名以上 老健:2名以上	0	0	0	<地域包括> ・肺炎にて入院してきた患者が状態改善し、経口摂取開始となる。嚥下状態や嗜好等を評価、食形態の変更を行い安全な経口摂取へ取り組んでいる。 <なのはな・ひまわり> ・言語聴覚士と相談して一口運動から始めたい。 <ふじ・すみれ> ・むせ込みが増えた、食事に時間がかかるようになったなど変化があればその都度スタッフ間で情報共有を行い、誤嚥性肺炎予防に努めている。
	新規1食開始	入院後1年以内に一食でも経口摂取可能となった人数	10	0	0	
	一口でも経口摂取開始	入院後1ヶ月以内に少しでも経口摂取可能となった人数	10	0	0	
	経管栄養者	月末の経管栄養者数(経口併用も含む)	0	9	31	
個別ケア	吸痰実施者	月末の吸痰者数	10	9	17	<さくら・なでしこ> ・吸痰の入居者も、離床を積極的に行うようになっている。
	看取り件数	ターミナルケア計画による看取り件数			0	
【認知症ケアの充実】 <なのはな・ひまわり>歌を歌ったり、手遊び、ごはん前の運動をしている。 <ふじ・すみれ>火曜、木曜(毎週)レクリエーション実施。離床日以外でも車いす離床し、ミニレクリエーション実施。						
【ターミナルケアの推進】						